

福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

年報

令和元年度（2019）

F.U.

Sports and Health Science

福岡大学スポーツ科学部

第5号

# 福岡大学

スポーツ科学部

大学院スポーツ健康科学研究科

## 年報

令和元年度（2019）

福岡大学スポーツ科学部

第5号

## 目次

	挨拶	1
	活動内容	
1	学部および研究科の三つのポリシー	
	(1) スポーツ科学部	3
	(2) スポーツ健康科学研究科	7
2	活動年譜	9
3	教員組織および担当者	11
4	入試状況、学生数および卒業生数、出張講義	
	(1) スポーツ科学部	14
	(2) スポーツ健康科学研究科	17
5	教育活動	
	(1) 入学前教育	18
	(2) 新入生懇談会	18
	(3) クラス面談・修学指導	20
	(4) フレッシュマンセミナー授業方法	21
	(5) ステップアップセミナー授業方法	25
6	研究活動	
	(1) スポーツ科学部	27
	(2) スポーツ健康科学研究科	27
7	FD・SD活動	
	(1) シラバス点検	29
	(2) 学外研修参加	29
	(3) ワークショップ、研修会の開催	30
	(4) 授業アンケート	31
8	地域連携・社会貢献、高大連携	33
9	国際交流	36
10	教職課程	38
11	就職・進路	
	(1) スポーツ科学部	40
	(2) スポーツ健康科学研究科	41
12	広報推進	42
13	外部獲得資金実績	44
14	関連資料一覧	46

# 令和元年 体育学部・スポーツ科学部 50周年

## ～絆とさらなる前進～

前スポーツ科学部長 田中 守

スポーツ科学部長 米沢 利広

前スポーツ健康科学研究科長 檜垣 靖樹

スポーツ健康科学研究科長 川中 健太郎

スポーツ科学部とスポーツ健康科学研究科では、2015年度版から学部と研究科の年間活動を総括し、記録に残すとともに学内外にその成果を公表する目的で、2016年秋に「スポーツ科学部・スポーツ健康科学研究科年報」を創刊しました。本年報は、2019年度版（第5号）になります。学部・研究科教員の研究活動（研究業績）と社会活動、競技・指導活動は「スポーツ科学研究（大学研究紀要）」に、また現在学部として取り組んでいる教育プログラムの「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と「ココロとカラダのウェルネスプログラム」は別冊あるいはスポーツ科学部ホームページ上の電子ファイルとして詳細を掲載していますので、本年報（第5号）はこれら以外の内容になります。具体的には、目次をご覧ください。

スポーツ科学部は、1969年（昭和44年）体育学部体育学科として学生定員100名で創設されました。その後、学生定員増（臨時定員増を含め）を何度か経て現在の学生定員295名となっています。1998年（平成10年）スポーツ科学部への名称変更とともにスポーツ科学科と健康運動科学科の2学科へ改組転換し現在に至っています。従って、2019年（平成31年＝令和元年）に創設50周年を迎えることができました。2020年（令和2年）3月291名の卒業生を加えて総数11,667名を輩出しています。

スポーツ健康科学研究科は、1990年（平成2年）体育学研究科体育学専攻修士課程として6専修部門（体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチ学、健康運動学）を創設しました。2003年（平成15年）にスポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻に改称し、現在6部門13専修となっています。また、2004年（平成16年）にはスポーツ健康科学専攻博士課程を2部門（健康運動科学、スポーツトレーニング科学）増設しました。従って、本年報（第5号）が発刊される2020年（令和2年）に創設30周年を迎えます。2020年（令和2年）3月9名の修了生を加えて総数440名の修了生（博士課程前期402名、満期退学者を含む博士課程後期38名）、19名（2019年度は1名）の課程修了による博士と2名の論文提出による博士を輩出しています。

2013年（平成25年）12月から学部役職員の変更に伴う新体制がスタートし、“**学部の魅力づくり**”をテーマに、“**FUSS アクティブプラン（福岡大学スポーツ科学部推進計画）**”の名称で取り組んでいます。スポーツ・健康運動に関する分野において社会を先導する高い専門性と気概を持った人材の育成（教育面）に加えて、これを実現できる教育環境づくり（教育組織、FD・SD）、

並びに教育や社会に資する研究環境の整備（研究面）を推進し、さらに近未来に向かって学部が独自に取り組む特別プロジェクトを推進し、もって“学部の魅力づくり”を目標としています。

2019年度（令和元年度）は、FUSS アクティブプランを中心とした学部のさまざまな取り組みを継続しながら、以下の3点を大きな活動として取り上げることができます。

1. 「体育学部・スポーツ科学部創設50周年記念事業」として、「体育学部からスポーツ科学部へ ～絆とさらなる前進～」をテーマに、記念誌の作成と11月2日に記念講演（元バレーボール日本代表の大林素子選手）、記念式典を行いました。併せて、1989年（平成元年）に創設した体育学部同窓会「健信会」の30周年記念事業も行いました。
2. 役職員改選により、12月から田中守学部長体制から米沢利広新学部長体制（組織図参照）に移行しました。また、スポーツ科学部から初めて田中守副学長（医療・医学・スポーツ・健康・学生分野担当）が誕生し、何よりスポーツ担当副学長も初めてのケースとなりました。
3. 第二記念会堂玄関に学友会体育部会の活躍をアピールする優勝旗や優勝杯の展示やタペストリーの設置を行いました。

なお、パンデミック（世界的大流行）となってしまった歴史に残る「新型コロナウイルス」感染拡大防止のため、2020年3月の卒業式が中止となり、併せてスポーツ科学部の学位記授与式も中止となってしまったことを付記しておきます。

大学院スポーツ健康科学研究科では、釜山大学との大学院国際学术交流も2019年度で8回目になりました。また、大学院充足率向上を目的に12月に学部生を対象とした大学院説明会を初めて開催しました。

これらの魅力を学内外に精力的に発信すべく、学部・大学院ホームページの充実にも力を入れています。

一方、人事に関して、講師以上の採用はありませんが、新助教6名（9月採用を含む）、新助手4名を含めて、専任教員（講師以上）31名、特任教授1名、助教・助手27名、教育技術職員4名・事務職員7名の総勢70名で学生教育に取り組んでいます。

本学では、1996年（平成8年）から大学基準協会の「大学評価マニュアル」に基づき、自己点検・評価を開始しました。その後、自己点検・評価の実施と結果公表の義務化に伴い2000年度（平成12年度）に第2回目の自己点検・評価を行いました。2004年（平成16年）からは第三者機関（認証評価機関）による認証評価を7年に1回受けることが義務付けられ、本学では2007年度（平成19年度）に第3回目、2014年度（平成26年度）に第4回目の自己点検・評価を行い、翌年“大学基準協会に適合”との認証評価を受けました。2015年度（平成27年度）からは毎年自己点検・評価を行うことになり、本年報が学部基礎データ調書資料としても活用できています。

# 1 学部および研究科の人材養成の目的と三つのポリシー

## (1) スポーツ科学部

### ●人材養成の目的

スポーツ科学部は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

### ○アドミッション・ポリシー

スポーツ科学部は人材養成の目的を達成するために、

1. スポーツを日常的に実践している人
2. スポーツや身体運動を対象に積極的に科学しようとする人
3. 競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上を目指す人
4. 体育教員、スポーツコーチ、インストラクター、健康運動指導士などスポーツや健康全般にかかわる職種を目指そうとする人

の入学を求めています。

### ○カリキュラム・ポリシー

スポーツ科学部のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む推奨コースを設定しています。さらに、実技科目や演習科目は、理論と実践を統合した教育を体系的に行うために、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。

スポーツ科学科は、自らが専門とするスポーツ種目の技能およびスポーツ全般にわたる科学的指導能力の向上を、また健康運動科学科は、健康運動・レクリエーションの科学的基礎知識に基づく実践・指導能力の習得をそれぞれねらいとし、各学科の特性にあったカリキュラムを編成しています。

### ○ディプロマ・ポリシー

スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. スポーツや運動全般の科学的指導能力を備えている。
2. 専門とするスポーツ・運動の高い技能と指導能力を備えている。
3. スポーツ・運動の医科学的知識に基づく卒業論文作成能力を備えている。
4. スポーツ・運動を通じて得られた社会や職業活動に必要なコミュニケーション能力、課題解決力、倫理的思考力を備えている。
5. 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を身につけている。

## ■ スポーツ科学科 学位（教育）プログラム名：スポーツ科学

### ●人材養成の目的

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

## スポーツ科学科 三つのポリシー

### ○アドミッション・ポリシー

#### ◆養成する人材像・教育課程の特色

スポーツ科学科は、競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、スポーツ・運動に関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した4つのコースを用意しています。自身の競技力向上とアスリートやコーチを目指すためのアスリート・コーチコース、アスリートのサポートを担うためのトレーナーコース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応したスポーツ科学の在り方を探求しています。

#### ◆求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

#### ◆入学者選抜のねらい

スポーツ科学科では、競技スポーツの実践経験と高等学校までの学びを融合させ、競技力向上を目的とするスポーツ科学の発展に寄与しようとする人材を広く受け入れます。そのため、これまでに培われた学力、活動や経験を通じて身につけた能力、資質、学ぶ意欲などを、多面的・総合的に評価する多様な入学試験を実施します。

### ○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって、学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができる

ように、一部選抜制を含む 4 つの推奨コース（アスリート・コーチコース、トレーナーコース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群およびコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

スポーツ・運動の理論と実践を統合した教育を体系的に行うため、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。実技科目については、自らが専門とするスポーツ種目を学べるように、選択必修の実技科目を多く配置しています。そして、「スポーツ実習Ⅱ」や「コーチ法演習」などの科目では、専門とするスポーツ種目のコーチング理論を深めるとともに、リーダーシップ・コミュニケーション能力および倫理的思考力の育成も行っています。

### ○ディプロマ・ポリシー

#### 【知識・理解】

- A-1 スポーツ・運動の医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 専門とするスポーツの技術構造について理解し、説明できる。
- A-3 専門とするスポーツの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

#### 【技能】

- B-1 専門とするスポーツの技術を習得し、競技等の場面において発揮することができる。
- B-2 専門とするスポーツの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 スポーツ・運動を通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 スポーツ・運動を通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

#### 【態度・志向性】

- C-1 スポーツ科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 スポーツ・運動について自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 スポーツ・運動を論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 スポーツ・運動を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 スポーツ・運動についてマネジメント等に取り組む意欲を持っている

## ■ 健康運動科学科 学位（教育）プログラム名：健康運動科学

### ●人材養成の目的

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

### 健康運動科学科三つのポリシー

#### ○アドミッション・ポリシー

#### ◆養成する人材像・教育課程の特色



健康運動科学科は、心身の健康の回復や保持増進を目指した医科学分野の知識を有し、創造的・実践的な指導ができる人材を養成することを目的としています。そのために、健康運動・レクリエーションに関する理論と実践を統合した教育科目を体系的に配し、学生の興味・関心及び卒業後の進路に対応した3つのコースを用意しています。健康運動関連資格取得を目指す健康運動指導者コース、現役で中学校・高等学校の保健体育教員採用試験合格を目指すための保健体育教員コース、地域社会における幅広いスポーツ指導者として活躍するための生涯スポーツ教育コースがあり、多様な社会ニーズに対応した健康運動科学の在り方を探求しています。

#### ✦求める人材像（求める能力）

- ・ 知識・理解 生涯スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- ・ 技能 生涯スポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人
- ・ 態度・志向性 スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- ・ その他能力・資質 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

#### ✦入学者選抜のねらい

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む3つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

#### ○カリキュラム・ポリシー

本学位（教育）プログラムのカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を備えた人材を育成することを目的として編成されています。

そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて選択できる専門教育科目を多くしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む3つの推奨コース（健康運動指導者コース、保健体育教員コース、生涯スポーツ教育コース）を設定しています。カリキュラムの中に各コースの推奨科目群とコース共通科目群を設け、早くから専門的知識や技能を体系的に習得できるようにしています。

健康運動・レクリエーションの理論と実践を統合した教育を行うために、「スポーツ科学演習」「卒業研究論文」などの演習科目は、少人数のクラスによる双方向の授業形態を多くとっています。また、健

康運動・レクリエーションに関わる実習科目や演習科目では、現場の実践に即した科学的指導能力やマネジメント能力を高め、地域社会に貢献する態度を身につけられるようにしています。

## ○ディプロマ・ポリシー

### 【知識・理解】

- A-1 健康運動・レクリエーションの医科学的基礎知識について理解し、説明できる。
- A-2 健康運動・レクリエーションの技術について理解し、説明できる。
- A-3 健康運動・レクリエーションの指導方法について理解し、説明できる。
- A-4 人文科学、社会科学、自然科学および外国語の幅広い知識と教養を理解している。

### 【技能】

- B-1 健康運動・レクリエーションの技術を習得し、運動指導等の場面において発揮することができる。
- B-2 健康運動・レクリエーションの技術や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導することができる。
- B-3 健康運動・レクリエーションを通じてリーダーシップ・コミュニケーション能力を身につけ、発揮することができる。
- B-4 健康運動・レクリエーションを通じて倫理的思考力を身につけ、発揮することができる。

### 【態度・志向性】

- C-1 健康運動科学の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- C-2 健康運動・レクリエーションについて、自ら課題を発見し、解決する意欲を持っている。
- C-3 健康運動・レクリエーションを論理的に説明する意欲を持っている。
- C-4 健康運動・レクリエーションの技術を通じて地域社会に貢献する姿勢を備えている。
- C-5 健康運動・レクリエーションについてマネジメント等に取り組む意欲を持っている。

## (2) スポーツ健康科学研究科

### ●人材養成目的及びその他教育研究上の目的

スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象とする学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に向けて貢献し、高度なスポーツ知を拓く研究科として機能することを教育理念とする。博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基に、体育・スポーツ・健康・レクリエーションに関する科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行う。博士課程後期では、健康増進や疾病・障害の治療・予防・再発防止を目的とした運動プログラムの開発・実践に関する研究や、幼少期から高齢期に至るライフステージに応じたスポーツパフォーマンスの向上を目的とした研究などの専門的な領域について自立して研究活動を行い得る研究者を養成する。

### スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻三つのポリシー

#### ○アドミッション・ポリシー

本研究科は、博士課程前期では、指導現場において科学的指導を実践・応用できる人材を育成するとい

う観点から、

- 1) スポーツや運動を科学的観点から研究することに興味のある人
- 2) 競技スポーツにおいてパフォーマンスを向上させる科学的方法に興味のある人
- 3) 教育の現場でより高度な科学的成果を取り入れようとしている人
- 4) 医療現場で運動により健康の維持や疾病の予防しようとする人

の入学を求めている。また、博士課程後期では、高等教育機関あるいは研究機関において独立して研究できる人材を育成するという観点から、

- 1) 基礎的な学力を有し、創造的で柔軟な発想を持ち、研究を遂行することができる人
- 2) 博士課程前期では十分な研究成果を得られず、研究を継続することを望む人
- 3) 医療や健康増進に強い熱意がある人
- 4) 広く自分の研究成果を国外にも発信したい人
- 5) スポーツ・体育分野の出身者以外にもスポーツや健康を科学的に研究することに興味のある人の入学を求めている。

そのため、体育、体育・スポーツ科学関連学部の卒業生のみならず、広範囲からの領域の学生の受け入れを目指している。特に、社会人や外国人は積極的に受け入れる。

#### ○カリキュラム・ポリシー

博士課程前期では、各自の専門性を高めるために、各部門ごとに「特別研究」と「特講」などの専修科目を設置し、同時に、関連する領域の知識の獲得を意図した非専修科目が配置している。特に、スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目が用意されている。さらに、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目は部門の枠を越えて幅広い知識の獲得を目指している。

博士課程後期では、博士論文指導を目的とした「特別研究」以外にも、全論文指導教員および論文指導補助教員によるオムニバス形式の科目を配置し、基本的なリサーチメソッドの獲得に資している。

#### ○ディプロマ・ポリシー

博士課程前期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

- (1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に修士論文としてまとめる能力。
- (2) 修士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力。
- (3) スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する能力。

博士課程後期では、福岡大学大学院学則に定める必要な事項を充足した上で、以下の能力を有することを学位授与の要件とする。

- (1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に博士論文としてまとめる能力。
- (2) 博士論文の研究の背景、目的、方法、結果およびその意義を説明する能力。
- (3) スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力。

## 2 2019年度 活動年譜

2019年		【学部】	【研究科】
4月	1日	入学式	入学式・新入生ガイダンス
	2日	新入生ガイダンス	
	5日	新入生懇談会	
		ステップアッププログラム	
		先輩と語る -大学と社会-	
10日	前期授業開始	前期授業開始	
5～6月		修学指導	
6～7月		父母懇談会 (本学・各地)	
6月	29日		大学院推薦入試
7月	9～23日	前期授業アンケート	前期授業終了
	23日	前期授業終了	
	24日	前期定期試験開始	
8月	1日	前期試験終了	修論中間報告会 オープンキャンパス プール実習 夏季休業開始 前期集中授業開始 ゴルフ実習 AO入試特別講座① AO入試公開練習会① 前期集中授業終了 キャンプ実習 (前段) AO入試公開練習会② AO入試特別講座② キャンプ実習 (キャンプⅡ)
	2日		
	3日	オープンキャンパス	
	3～6日	プール実習	
	4日	夏季休業開始	
	5日	前期集中授業開始	
	5～6・9日	ゴルフ実習	
	8日	AO入試特別講座①	
	9日	AO入試公開練習会①	
	9日	前期集中授業終了	
	17～21日	キャンプ実習 (前段)	
	22日	AO入試公開練習会②	
	23日	AO入試特別講座②	
	26～30日	キャンプ実習 (キャンプⅡ)	
	9月	2日	
6～10日		キャンプ実習 (後段)	後期授業開始 学位記授与式 (修士)
10～13日		海浜実習	
13日		夏季休業終了	
14日		後期授業開始	
28日		前期卒業式	

10月	3日		学位記授与式(博士)
11月	19・20日 30日	A方式推薦入試	釜山大学との学術交流会
12月	7日  18~1月15日 27日	ステップアッププログラム 先輩と語る -大学と社会- 学部祭 後期授業アンケート 冬季休業開始	冬季休業開始

2020年		【学部】	【研究科】
1月	4日 6日 15日 16日 17日 18・19日 27日 29日  30・31日・2月3・4日	冬季休業終了 後期授業再開 後期授業終了 後期試験開始 FDワークショップ センター試験 後期試験終了 卒業論文発表会 謝恩会 スケート実習	冬季休業終了 後期授業再開
2月	1~5日  2日~ 3日~ 7日~ 6日 10日 14~18日 19日	スキー実習(前段)  一般入試・系統別 一般入試・前期日程 一般入試・GS実技 シラバスチェック  スキー実習(後段)	修士論文発表会・公聴会  春季大学院入試
3月	2日 5日 16日 19日(中止)  21日 23日 29日 30日	一般入試・スポーツ科学部特別募集 一般入試・後期日程  卒業式 授業アンケート報告 在学生履修登録開始  在学生履修登録終了	学位記授与式(博士) 卒業式・学位記授与式(修士)  在学生履修登録開始  在学生履修登録終了

### 3 教員組織 (2019年度)

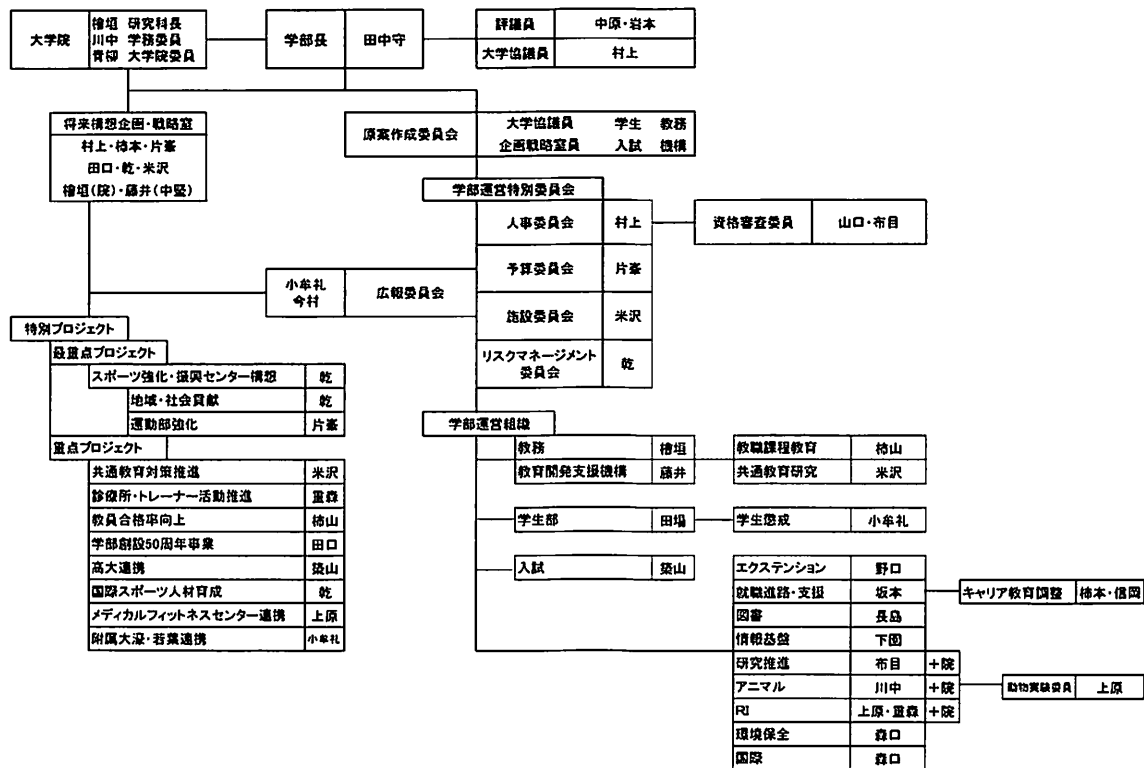
スポーツ科学部長	田中守	(~2019.11)
	米沢利広	(2019.12~)
教授	青柳領	(幼児発育発達・スポーツ計量論)
	乾真寛	(コーチ学・サッカー)
	岩本英明	(スポーツ整形外科・スポーツ医学)
	上原吉就	(スポーツ内科学・スポーツ医学・予防医学)
	柿山哲治	(スポーツ教育学・保健体育科教育学)
	柿本真弓	(コーチ学・ダンス・体操・新体操競技)
	片峯隆	(コーチ学・運動学・バイオメカニクス・陸上競技)
	川中健太郎	(スポーツ栄養学・生化学・分子運動栄養学)
	小牟礼育夫	(スポーツ方法学・バスケットボール)
	下園博信	(スポーツ心理学・スポーツ方法学・ラグビー)
	田口晴康	(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
	田中守	(体力学・トレーニング学・生理学・ハンドボール)
	築山泰典	(野外教育学・レクリエーション)
	中原一	(スポーツ方法学・柔道)
	布目寛幸	(バイオメカニクス)
	檜垣靖樹	(スポーツ生理学・健康運動学・予防医学)
	藤井雅人	(スポーツ社会学・スポーツ教育学)
	村上純	(スポーツ方法学・コーチ学・ラグビー)
	森口哲史	(公衆衛生学・鍼灸医学・ハンドボール)
	山口幸生	(運動心理学・行動科学・テニス)
	米沢利広	(スポーツ方法学・バレーボール)
特任教授	梅田保人	(保健体育科教育学)
准教授	今村律子	(保健体育科教育学・コミュニケーション論)
	坂本道人	(コーチ学・柔道)
	重森裕	(脳神経外科学・救急医学・スポーツ健康科学)
	田場昭一郎	(コーチ学・競泳)
	野口安忠	(コーチ学・スポーツ方法学・陸上競技)
	道下竜馬	(スポーツ生理学・健康運動学)
講師	霜島広樹	(スポーツ経営管理学・スポーツ産業論)
	長島和幸	(体育哲学・スポーツ史・レスリング)
	信岡沙希重	(コーチ学・陸上競技)
	渡邊正和	(バイオメカニクス・コーチ学・硬式野球)

助	教	安	部	七	波	助	手	朝	野	新	菜
		伊	賀	崇	人			江	藤	佳	祐
		岡	部	優	真			岡	木	史	生
		古	瀬	裕	次郎			黒	橋	温	子
		佐	野	智	樹			高	藤	大	輔
		田	方	慎	哉			谷	城	康	和
								築	田	光	拓
								寺	田	卓	輝
								宮	岡	郁	哉
								好	行	理	弥
								吉			瑛
		西	田		智						
		野	中	雄	太						
		福	嶋		洋						
		松	永	真	季						
		村	手	一	斗						
		安	方		惇						
		山	本	泰	暉						
		羅		成	圭						
		渡	邊	孝	士郎						

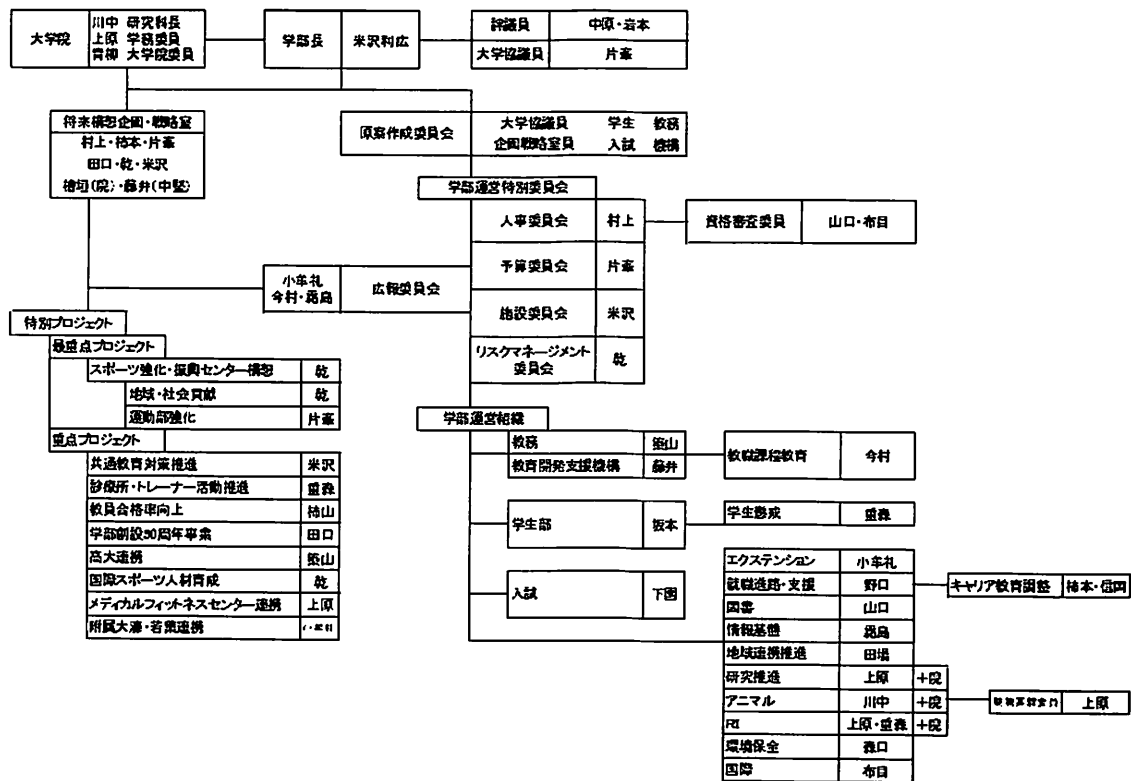
大学院スポーツ健康科学研究科 担当教員 (2019年度)

スポーツ健康科学研究科長		檜垣靖樹 (～2019.11)									
		川中健太郎 (2019.12～)									
教	授	青	柳	領	教	授	布	目	寛	幸	
		岩	本	英			檜	垣	靖	樹	
		上	原	吉			藤	井	雅	人	
		柿	山	哲			森	口	哲	史	
		川	中	健	太郎		山	口	幸	生	
		下	園	博	信	准	今	村	律	子	
		田	口	晴	康	教	重	森		裕	
		田	中		守	助	羅	村	成	圭	
		築	山	泰	典		田	村	雄	志	

スポーツ科学部教員組織図 (2019.4~11)



スポーツ科学部教員組織図 (2019.12~2020.3)





## 4 入試状況、学生数及び卒業生数、出張講義

### (1) スポーツ科学部

築山 泰典・下園 博信

#### ■ 推薦入試

A方式推薦入試に関し、スポーツ科学科では、募集人員 55 名に対し、志願者 123 名で合格者 61 名(競争率 2.1 倍)であった。また、健康運動科学科では、募集人員 15 名に対し、志願者 23 名で合格者 12 名(競争率 1.9 倍)であった。両学科の競争率は 2.1 倍と 1.9 倍であり、募集人員の少ない健康運動科学において第 2 志望合格を継続実施している。

次に、スポーツ特別推薦に関しスポーツ科学科では、志願者 51 名に対し合格者 42 名(競争率 1.2 倍)、健康運動科学科では志願者 8 名に対し合格者 6 名(競争率 1.3 倍)、合計 48 名の合格者であった。スポーツ特別推薦は、全学として 87 名の出願に対し 80 名の合格者であり、合格者に占める本学部への合格者の占める割合は 60.0%であった。

#### 推薦入試状況

学科	A方式推薦入試					スポーツ特別推薦入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	募集人員	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	55	123	123	*61	2.1	50 程度	51	42	1.2
健康運動科	15	23	23	12	1.9		8	6	1.3

競争率=受験者÷合格者(第二志望合格者を除く)、(スポーツ特別推薦入試は志願者÷合格者)\*欄は第二志望合格者(1人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

#### ■ AO入試

スポーツ科学科に関しては、募集人員 33 名に対し、志願者 164 名で合格者 33 名(競争率 5.0 倍)であった。また、健康運動科学科に関しては、募集人員 7 名に対し、志願者 17 名で合格者 7 名(競争率 4.3 倍)であった。また、健康運動科学科では第二志望合格 3 名を含むためスポーツ科学科に近い競争率となった。

#### AO入試状況

学科	募集人員	公開練習会等の参加者	志願者	合格者	競争率
スポーツ科	33	307	164	33	5.0
健康運動科	7		17	*7	4.3
合計			161	40	185

競争率=受験者÷合格者(第二志望合格者を除く)\*欄は第二志望合格者(3人)を含む

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

#### ■ 一般入試

系統別日程では、スポーツ科学科が、募集人員 7 名に対し、受験者 139 名で合格者 28 名(競争率 5.0 倍)であった。また、健康運動科学科は、募集人員 2 名に対し、受験者 109 名で合格者 20

名(競争率 5.5 倍)であった。

前期日程では、スポーツ科学科は募集人員 58 名に対し、実技型においては受験者 220 名で合格者 73 名(競争率 3.0 倍)、小論文型においては受験者 72 名で合格者 23 名(競争率 3.1 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 20 名に対し、受験者 142 名で合格者 34 名(競争率 4.2 倍)であった。

後期日程では、スポーツ科学科が募集人員 7 名に対し、受験者 25 名で合格者 7 名(競争率 3.6 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 10 名で合格者 5 名(競争率 2.0 倍)であった。

センター試験利用入試 I 期では、スポーツ科学科が募集人員 7 名に対し、受験者 75 名で合格者 23 名(競争率 3.3 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 59 名で合格者 20 名(競争率 3.0 倍)であった。

センター試験利用入試 II 期では、スポーツ科学科が募集人員 5 名に対し、受験者 40 名で合格者 9 名(競争率 4.4 倍)であった。また、健康運動科学科は募集人員 3 名に対し、受験者 29 名で合格者 8 名(競争率 3.6 倍)であった。

#### 系統別日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	7	139	139	28	5.0		326	256
健康運動科	2	110	109	20	5.5		326	260

#### 前期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者	合格最高点	合格最低点
スポーツ科	58	実技型						
		226	220	73	3.0	0	240	180
		小論文型						
		74	72	23	3.1	0	223	180
健康運動科	20	144	142	34	4.2	6	227	190

#### 後期日程状況

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	7	26	25	7	3.6
健康運動科	3	10	10	5	2.0

#### センター試験利用入試 I 期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	7	76	75	23	3.3

健康運動科	3	61	59	20	3.0
-------	---	----	----	----	-----

センター試験利用入試 II期

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	5	40	40	9	4.4
健康運動科	3	29	29	8	3.6

編・転・学士入試

学科	志願者	受験者	合格者	競争率
スポーツ科	1	1	0	—

競争率＝受験者÷合格者

(福岡大学入試状況サイト入試状況表から一部抜粋)

## ■ 学生数及び卒業生数

学生数

(令和元年5月1日現在)

		1年次	2年次	3年次	4年次以上
スポーツ科学科	938	232	224	223	259
健康運動科	303	74	70	76	83
合計	1,241	306	294	299	342

## ■ 出張講義

2019年度入学センターより依頼があり実施した出張講義・模擬講義数は18件(生徒総数1,082名)と昨年度14件(生徒数771名)より増加した。福岡県下での実施が11件と最も多いが、鹿児島県4件、広島県、山口県、長崎県が1件ずつあり、学部教員の協力により実施することができた。出張講義ガイドブック「福岡大学模擬講義NAVI」には、本学部教員18名も掲載されている。また、引き続きマリンメッセ福岡で開催された「夢ナビライブ2019」に参画し、181名の生徒と直接かかわる機会を得た。

### ■ 令和元年度実施入試状況

#### アスリート推薦入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	1	1	1

#### 飛び級入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	1	1	1

#### 一般入試

	秋季*			春季*		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	4(1)	4(1)	4(1)	5(3)	5(3)	5(3)
博士課程後期	0	0	0	1(1)	1(1)	1(1)

\* ( ) 内 社会人

#### 外国人留学生入試

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	1	1	0

#### 推薦入試\*\*

	志願者	受験者	合格者
博士課程前期	1(1)	1(1)	1(1)

\*\* ( ) 内 早期履修者数、但し該当学生は合格後 入学辞退

### ■ 令和元年度 学生数及び修了生数

#### 学生数

(令和元年5月1日現在)

		1年次	2年次 (留年者含む)	3年次 (留年者含む)
博士課程前期	18	8	10	
博士課程後期	11	1	2	8
合計	29	9	12	8

令和元年度の修了生については、博士課程前期修了8名が学位(修士号)を取得。博士課程後期修了2名(内 秋季修了1名)が学位(博士号)を取得し、満期退学が0名であった。

## 5 教育活動

### (1) 入学前教育

築山 泰典・下園 博信

令和年度 AO 入試及び推薦入学合格者に対して、外部業者と連携し、基礎国語 3 講、スポーツ科学入門 7 講の計 10 講からなる通信教育形式による入学前教育を実施している。今年度は、課題提出率（令和 2 年 3 月 27 日現在）は、AO 入試合格者は 100.0%，推薦試験合格者は 87.1% であった。

#### 基礎国語

- 1 講：PC 時代に相応しい言葉力をつける・ノートを作る
- 2 講：ことばを自分のものにする(短文作り)
- 3 講：目の前のものを正確に描写する

#### スポーツ科学入門基礎

- 1 講：「スポーツ科学」の研究領域
- 2 講：身体の構造と機能
- 3 講：フィットネス・トレーニング
- 4 講：スポーツのスキル
- 5 講：アスリートの身体管理
- 6 講：運動の効果とスポーツ損傷
- 7 講：データの処理

### (2) 新入生懇談会

田場 昭一郎・坂本 道人

新入生学部指導懇談会は、以下の内容を新入生に理解させ、活力ある学生生活となるための動機づけを行うものとし実施している（参加者 338 名：学生 307 名、教職員 31 名）。

- 1) 福岡大学の校訓を理解し、充実した学生生活を送るための諸注意。
- 2) スポーツ科学部生としての自覚を促し、スポーツ活動に専心する心構えと勉学に励む態度を啓発する。
- 3) 各種委員からのガイダンスにより、学生生活を円滑に始められるようにする。

<日 時> 平成 31 年 4 月 5 日（金曜日） 8 時 40 分集合（開会 9 時）

<場 所> A 棟 201 教室および第二記念会堂体育館

<内 容> スポーツ科学部長挨拶

健信会会長挨拶

総務委員からの案内

学生部ガイダンス（大学生活に関わる諸問題とその対応について）

福大生ステップアッププログラム「先輩と語る」

## 海外研修報告

- ① 体育・スポーツのエキスパート教育プログラム
- ② JICA ボランティア派遣事業プログラム

## 日本語能力基礎調査

### 各種委員会からの連絡と諸注意

- ① 就職進路支援センター委員
- ② 国際交流センター委員
- ③ 図書委員
- ④ 健康管理センター
- ⑤ HDセンター
- ⑥ 福岡リーガルクリニック法律事務所

### 早良警察署による連絡と諸注意（防犯・交通マナー講習）

### 福岡大学校歌の斉唱

### スポーツ科学部教職員スタッフ紹介

### 各担当教員によるクラス担任別懇談会（グループディスカッション）

### 部活動アンケート調査

例年、スポーツ科学部の学部行事として新入生懇談会を実施している。本会では、学部生が授業で使用する学部ユニフォーム（赤色のジャージ）を着用して参加することを義務付け、さらに挨拶励行、行動敏速、時間厳守を徹底し、この会を通じて、体育・スポーツに関わる者として、体を動かすことの社会的役割や生涯的価値を学ぶ先駆けとなるよう心掛けている。

スポーツ科学部長より、入学後にスポーツ科学部生として自覚を持つ事、学部のカリキュラム・ポリシーを十分に理解して自己研鑽に励む事、文武合一して多くのことを学んでもらいたいとの挨拶が行われた。健信会会長（福岡大学スポーツ科学部の同窓会）より、有信会（福岡大学の同窓会）との関わりや、卒業生との帰属意識を高めることの意義について説明が行われた。また学生部ガイダンスでは、学生生活を送るにあたっての諸注意、困った時の学内における対応窓口について、さらに実際の学生生活で起こりうる諸問題などの事例を挙げ説明された。

また、スポーツ科学部の年間行事で新入生学部指導懇談会とスポーツ科学部祭を実施しているが、これらの行事において「福大生ステップアッププログラム先輩と語る—大学と社会—」を企画し、本学部を卒業した先輩方へ講話を依頼している。平成31年度は、在学中に日本選手権および学生選手権の連覇を成し遂げ、現在も現役選手として活躍している太田亜矢先輩にご講話を頂いた。4歳から続けていた野球を辞めて、高校入学と同時に陸上競技（投てき）に転向し、学生時代にアジア選手権において日本歴代5位の記録で3位入賞するまでの過程について「毎日嘘偽りなく協議のために生活することによって食欲に競技と向き合った過程についての講話であった。特に競技スポーツに携わる学生にとっては興味深く熱心に話を聞いていた。

さらに海外研修報告では、「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の授業と並行し「体育・スポーツのエキスパート教育プログラム」を利用して海外研修に行った学生のプレゼンテーションが行われ、特に競技においてトップアスリートを目指す新入生にとって貴重な発表内容であった。また

「JICA ボランティア派遣事業プログラム」を利用して海外研修に参加した野球部とサッカー部の学生の発表も行われ、このプレゼンテーションも JICA と提携したスポーツの普及活動として、「スポーツを支える」という観点から行われている企画で、慣れない土地での先輩方の活躍に、新入生も興味を示す様子が伺えた。

また、この懇談会で実施している日本語能力基礎調査は、1年次生の必修講科目であるフレッシュマンセミナーの文章力講座と関連付けており、各教員が行うクラス面談で学生にフィードバックされ、入学後の文章力向上のための指導に役立てている。

最後に、スポーツ科学部の各種委員（就職進路支援センター委員、国際交流センター委員、図書委員）と、学内の各種センター（健康管理センター、ヒューマンデベロップセンター、福岡リーガルクリニック法律事務所）など、学内での施設や受付窓口に関する事細かな説明が行われた。そして、スポーツ科学部の教職員紹介、各教員別のクラスに分かれてのグループディスカッションとアンケート調査を実施した。

### (3) クラス面談・修学指導

田場 昭一郎・坂本 道人

#### ■ クラス面談について

スポーツ科学部では、1・2年次生を対象にクラス別個人面談（グループディスカッション）を実施している。クラス別個人面談は、講師以上の専任教員が10～12名程度のクラスを担当し、定期的に学生の実態調査を行うもので、学生の生活状況や生活態度を把握するとともに、学生に対する注意喚起を行っている。大学生活を通じての授業、所属する運動部やサークル等の課外活動、アルバイト等の活動における問題点や悩みなどに対応し、個々にアドバイスできるような指導体制である。なお、面談については以下の通りである。

- 1) 新入生懇談会でグループディスカッション（4月5日）
- 2) 各担当教員における1年次生を対象とした個人面談（前後期に各1回）  
前期：7月8日～7月19日・後期：9月25日
- 3) 各担当教員における2年次生を対象とした個人面談（前後期に各1回）  
前期：5月13日～24日・後期：9月30日～10月11日

1年次生は、学士課程の教育充実を図るために、基礎教育と導入教育を目的とした「フレッシュマンセミナー」が開講されており、その授業の1コマとして前後期に各1回ずつクラス面談を実施している。

2年次生は、継続的な指導として、1年次に担当した教員により引き続き個別指導が実施され、前・後期にクラス面談が行われる。

3年次生以降は、必修科目である卒業論文の事前指導として開講されている「スポーツ科学演習」を履修するため、各担当教員のゼミナールに所属し、その後、卒業までゼミナールの担当教員によって個別指導が行われる。

スポーツ科学部では、このような取り組みによって徹底した学生の指導体制を構築しており、学生も様々な立場にある教職員のアドバイスを受け、4年間の充実した学生生活が期待され、その成果は非常に大きい。

## ■ 修学指導について

スポーツ科学部は、前述した通り全学生を対象としたクラス別個人面談と修学指導対象の学生に対して面談を実施している。クラス面談に加えてさらに指導が必要な学生には、教務委員、学生部委員、入試委員、教務関係担当の教職員によって修学指導を実施している。対象となる学生は以下の通りである。

- 1) 2年次生：前年度の取得単位数が 23 単位以下の学生（登録単位数の半分以上の学生が対象）
- 2) 3年次生：前年度までの取得単位数が 46 単位以下の学生
- 3) 4年次生以降：1～3年次までの取得単位数が 77 単位以下の学生（卒業見込みなし）

面談については、例年通り修学指導記録書に「なぜ単位を取れなかったのか？」「今後の対応はどうするのか？」といった点を記録して学生の指導を行った。単位が取れなかった学生の理由としては「授業の欠席が多いこと」「試験勉強が十分にできなかったこと」「試験そのものができなかったこと」が挙げられた。1年次生の時には安易に単位が取れると油断して単位が取れなかった学生や、試験勉強の方法がわからない学生もいた。このような点を踏まえて、試験勉強に対するアドバイス、授業への出席の指導、今後の進路に対するアドバイスを行った。

学部・年次別の単位修得不振者の状況（％）

（平成 31 年 4 月 1 日現在）

	平成 31 年度入学生 (19 台)	平成 30 年度入学生 (18 台)	平成 29 年度入学生 (17 台)
修得単位 学部・学科	30 単位以下	60 単位以下	90 単位以下
スポーツ科学部	5.9	7.8	7.5

父母懇談会のしおりより一部抜粋

## （４）フレッシュマンセミナー授業方法

柿山 哲治・山口 幸生

本セミナーは、学生自身が「如何に学び、社会に貢献するか」について自問自答ながら自学自習を实践し、スポーツ科学部生としての規範とスポーツ科学部で学ぶ専門領域を理解し、卒後の進路と目標を明確に示すことができるようになることを目的としている。

授業内容は、1) 田中守学部長による「スポーツ科学部生として、理論と実践が融合した文武合一のすすめ」、2) 体育学部一期生の水原博而氏による「体育学部の歴史からその伝統と誇り」、3) コンピテンシー診断テスト、4) 外部講師による文章力講座、5) 日本語能力基礎調査、6) 「言葉の力」育成プログラム、7) スポーツ科学部全教員による専門性を生かした講義、8) ス



スポーツ科学部全教員による1年次学生に対する個別の就学指導、などで構成されている。以下に、特筆すべき取り組みについて記載する。

コンピテンシー診断テストは、本学就職支援センターの協力を得て、テストの実施とその結果の解説を実施している。コンピテンシーとは、高い成果を生み出す人の特徴的な行動特性のことをいい、学生生活で身につけたい6つの力、要望に応える力、新しい価値を創る力、何かを変える力、きちんとやる力、自らを活かす力、互いを活かす力を評価し、解説を加えることで、学生への気づきを促している。

文章力講座は、平成22年度から中学・高校で国語教員を務めた退職教員に講師依頼し、作文を主な課題とした内容を実施している。大学生の言葉の簡素化が、多くの専門家に指摘されている。本学部が毎年入学時に実施している日本語能力基礎調査によれば、新入生の語彙力は長期低下傾向にあり、特に令和元年度のスポーツ科学部新入生では、顕著な落ち込みがみられている。本文章力講座では、このように定期的に学生の能力を評価し、それらを踏まえた上で授業が進められている。また本講座では、単に語彙を向上させることだけでなく、1) 読み手意識を持った文章が書ける、2) 自分をしっかり見つめた文章が書けるようになる、3) 大学生生活に必要なレポート・論文作成の基本がわかり、書けるようになる、ことを狙いとしている。1クラス30名（前半・後半）で、5名の国語教師が担当し、課題作文の作成—作文指導と添削—課題作文の再提出といった流れで授業を進めている。受講した学生の殆どが授業内容について高評価をしており、「文章力向上に役立つ意味のある授業である」「文章を書く基本的なことを理解できていなかった自分でも、多くの知識、スキルが身についた」「予習・復習もあり、教員からのフィードバックも多く、文章を書く力が身についた」「これまで成長できなかった自分の文章力が、この授業で大きく向上したと思う」回答している。

日本語能力基礎調査は、平成29年度より実施しており、語彙力に限定せず、日本語力の多様な側面を評価可能であり、学生個人への豊富なフィードバックが可能である。テストは1年生入学時（4月）、1年生フレッシュマンセミナー終了時（7月）の年2回実施となっている。測定結果は、年に2回行われるクラス面談（各専任教員が1学年10名程度を担当）時に配布し、1年生の基礎学力把握と学習指導の資料として有効に活用している。

言葉の力プログラムは、1) グループで学習するための基本的なノウハウを身につけ、実践する、2) 論理的な文章の構造を把握し、実際にそうした文章の骨格を作る、をねらいとして展開している。テーマは、①「部活動において厳しい上下関係は必要か」、②「中高生に対する体罰を用いた指導は意味があるのか」など、身近な課題を用いて、4人1グループで構成し、司会、プレゼンター、コメンテーター、書記を役割分担して、ローテーション形式で行わせる。具体的な例を掲げてディスカッションすることで議論の深まりが感じられ、関連する要因の可視化は論点の整理に有用と思われる。なお、2019年度は①を桧垣靖樹教授、②を柿山哲治教授が担当した。また、2018年度に実施した学生の言葉の力授業に関するアンケート調査結果から、コメンテーター役が一番難しいという意見から、この役を行う上でのポイントについて時間をかけて説明した。一方、ディスカッションの課題に関して学生から様々な意見が得られたので、次年度以降、課題テーマを学生のニーズに合わせて変更する必要があると思われる。

## 2019年度 1年次開講 スポーツ科学部フレッシュマンセミナー

○「スポーツ科学部生として如何に学び、社会にどのように貢献するか？」考えよう、そして実践しよう！

○提示された課題について、ミニッツペーパーに自分の考えをまとめてみよう！

回数	1 (未定)	2 (教室は掲示板確認)	本講座のねらい
日付	4月10日	4月17日	
1年次全員	<p>○田中守学部長：フレッシュマンセミナーのねらいと実践</p> <p>○水原先生（体育学部1期生）：新たな後輩たちへ。本学の歴史からその伝統と誇りを伝える。福大スポ科生としての自覚と誇りを持つ。</p>	<p>Aグループ： 文章力講座（外部講師） 30名/クラス、5クラス</p> <p>Bグループ： ○コンピテンシー診断テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校までの“生徒”ではなく“学生”としての学び方・態度・行動を身に付ける</li> <li>・スポーツ科学部生としての規範を身に付ける</li> <li>・学生としての基本である“自学自習”を実践する</li> <li>・スポーツ科学部教員の専門領域を理解する</li> <li>・文章力および日本語能力の向上を図る</li> <li>・卒業後の進路およびも目標を明確にする</li> </ul> <p>「如何に学び、社会に貢献するか」</p>

回数	3 (教室は掲示板確認)	4 (教室は掲示板確認)	5 (教室は掲示板確認)	6 (教室は掲示板確認)
日付	4月24日	5月8日	5月15日	5月22日
Aグループ	文章力講座（外部講師）30名/クラス、5クラス			
Bグループ	<p>○信岡先生 ○森口先生（スポーツと感染症について）</p>	<p>○長島先生 ○道下先生</p>	<p>○岩本先生 ○下園先生</p>	<p>○重森先生 ○霜島先生</p>

回数	7 (教室は掲示板確認)	8 (教室は掲示板確認)	9 (教室は掲示板確認)	10 (教室は掲示板確認)
日付	5月25日	5月29日	6月5日	6月12日
Aグループ	文章力講座（外部講師）30名/クラス、5クラス	スポーツと知財について ○研究推進部教授 角谷浩先生	○コンピテンシー診断テスト	○信岡先生 ○森口先生（スポーツと感染症について）
Bグループ	○コンピテンシー診断テスト事後フォロー講座		文章力講座（外部講師）30名/クラス、5クラス	

回数	11 (教室は掲示板確認)	12 (教室は掲示板確認)	13 (教室は掲示板確認)	14 (教室は掲示板確認)
日付	6月19日	6月26日	7月3日	7月10日
Aグループ	○長島先生 ○道下先生	○岩本先生 ○下園先生	○重森先生 ○霜島先生	○コンピテンシー診断テスト事後フォロー講座
Bグループ	文章力講座（外部講師）30名/クラス、5クラス			

回数	15 (未定)
日付	7月17日
1年生全員	<p>○日本語能力基礎調査</p> <p>○授業アンケート</p>

回数	1 (教室は掲示板確認)	2 (教室は掲示板確認)	3 (教室は掲示板確認)	4 (教室は掲示板確認)
日付	9月18日	9月25日	10月2日	10月9日
1年次全員	○藤井先生 ○乾先生	クラス別個人面談 (第2記念会堂フロア集合)	○米沢先生 ○今村先生	○渡邊先生 ○山口先生

回数	5 (教室は掲示板確認)	6 (教室は掲示板確認)	7 (教室は掲示板確認)	8 (教室は掲示板確認)
日付	10月16日	10月23日	10月30日	11月6日
1年次全員	○桧垣先生 ブレインストーミング①	○柿山先生 ブレインストーミング②	○柿本先生 ○坂本先生	○野口先生 ○田口先生

回数	9 (教室は掲示板確認)	10 (教室は掲示板確認)	11 (教室は掲示板確認)	12 (教室は掲示板確認)
日付	11月13日	11月27日	12月4日	12月11日
1年次全員	○築山先生 ○片峯先生	○布日先生 ○川中先生	○梅田先生 ○青柳先生	○村上先生 ○田場先生

回数	13 (未定)	14 (未定)
日付	12月18日	1月8日
1年生全員	○小牟礼先生 ○中原先生	○上原先生 ○授業アンケート

## 1) 本講座の背景

2019年度の全国大卒求人倍率は、1.83倍（リクルートワークス研究所調べ）と、前年の1.88倍より0.05ポイント下落し8年ぶりの低下となった。しかしながら、リーマンショックで求人倍率が大幅に低下した2010年卒以降では、2番目の高さであり、引き続き企業の採用意欲の高い状況が続いているといえる。このような状況のなか、本学部の就職率は、男子98.9（スポーツ科学科99.3・健康運動科学科100）%、女子98.7（スポーツ科学科98.0・健康運動科学科100）%、全体99.2%であった。このように、就職率だけをみると本学部生の就職状況は良好であるといえるが、今後、本学部が就職支援において目指すべきものは、就職率だけでなく学生個々の就職満足度の充実を図ることにあると考えられる。

## 2) 本講座のねらい

2019年度における企業の新卒採用活動については、これまでと同様に広報活動日が3月1日以降、選考活動開始日が6月1日以降という短期決戦型と言われる状況にある。しかしながら、ここ数年だけで見ても活動期間が年々前倒しされる傾向にある。これについては、一昨年前、日本経済団体連合会（経団連）が「2021年卒から採用選考に関する指針の廃止」を決定したことが背景にあると考えられる。このような背景から、事態を見据えた各企業が、必要な人材を確保するための独自の採用方法を試験的に取り組み始めていることが要因として推察される。このような状況を受けて、本講座は、学生がよりスムーズに充実した就職活動を展開できるよう、活動を開始する直前の2年次後期に開講されている。内容についても、本学部生に関係の深い職種や学生の要望に沿った講師の方々をお招きし、自身の体験談、社会の実情、学生時代に身につけておくべきスキルなど様々な内容が盛り込まれている。また、近年の就職試験や採用試験では一般的であるSPIの小テストを毎時間実施するなど、継続的に一般教養力を高めることも併せて取り組んでいる。このように、学生一人一人の就職活動に対する興味を促し、この時期に何を考え、何を準備しておくべきかを考えさせることが本講座のねらいである。

## 3) 今年度の新たな取り組み

今年度においても、授業アンケートによる学生の意見や前述した社会情勢などを考慮し、講義スケジュールの作成に取り組んだ。まず、近年の公務員志望者増加に伴う措置としては、昨年度に引き続き現役消防官、現役教員による講義を取り入れた。次に、青年海外協力隊経験者や昨年度本学と独立行政法人国際協力機構（JICA）の間で締結されたボランティア事業経験者による講義も取り入れるなど、グローバル人材育成も視野に入れた内容も加えた。さらには、近年、文部科学省において大学教育を通じたジェネリックスキル育成への期待が高まっていることを受け、コンピテンシーテストとその後のフォローアップセミナーも併せて実施した。また、今年度新たに工夫した点については、公・私立中学・高校においてそれぞれ現役教員として活躍されている学部卒業生に協力を賜り、様々な視点から教育職を考える時間の充実を図った。

## 4) 成果と課題について

これまでの本講座に対する学生の評価については、「消防士は、私が気になっている職業の一つでもあるため、今日の講義は大変勉強になった。消防士という仕事が、なるまで、そしてなっ

てからも大変な職業であることを初めて知ったが、思いは更に強くなった。準備をがんばり続けたい。」「私も私立教員を目指しているので、とても参考になりました。実際にあった出来事に対しそれをどのように対処したのかを、一緒に議論しながら紹介していただいたので大変勉強になった。」「青年海外協力隊は、とても気になっていた。海外に行ってボランティアをすることで自分の考え方も変わると思うし、新しい発見も多いと思う。今回多くのことを聞くことができ、更に興味が強くなった。」「大手スポーツメーカーが、どのような人材を必要としているのかを知ることができ、大変有意義であった。学生生活の取り組みを今一度見つめ直す良い機会となった。」など、興味・関心の高さが認められた。

学生を取り巻く就職状況は前述のとおり毎年大きく変化している。本講座においても、それらの変化に対する迅速な対応が求められている。本講座における今後の課題について、まずは、インターンシップ（就業体験プログラム）関係講座の積極的な導入が挙げられる。これについては、近年、各企業において「採用直結型インターンシップ」が増加傾向にあることから、早急に取り組むべき課題といえよう。次に、本学の教育理念としても掲げられるグローバル人材育成に即した、海外留学という選択肢の話題にも力を入れることが挙げられる。これらの点を来年度以降に向けた課題として、本講座の更なる充実を図っていきたいと考える。

## 6 研究活動

### (1) スポーツ科学部

布目 寛幸・上原 吉就

#### ■ 福奏プロジェクト

福岡大学 研究ブランディング事業として行われている「福奏プロジェクト」における3つのチームの内 (Team 2: 幼少期～青年期 学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム、Team 3: 中高年期～老年期 社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム) に関してスポーツ科学部は中心的な役割を果たしている。

##### 「Team2 : No 2 小学校の体育授業の支援」

教員のみならず、学部学生が体育授業を支援し、運動が苦手な子も含めて全員が飽きずに授業に参加でき、運動能力を高めるためのプログラムを開発。学生が小学校の体育の授業に携わることにより、責任感が身に付くと同時に教えることの面白さを知り、卒業後の進路として教員を選ぶ学生も増えてきた。小学校の教員にとっても、最新のトレーニング理論や授業の進め方を学ぶよい機会になっており、現在は、教員向けの実技研修も行っている。

##### 「Team2 : No 1 スロージョギング®による安全かつ効果的な予防プログラムに関する研究」

本研究チームでは、これまでの知見を応用して、スロージョギングをさらに普及させるための取り組みを行います。その一つが2泊3日の「ヘルスツーリズム」。食品会社、旅行会社、スポーツクラブ、企業の健康保険組合などと協働し、運動 (スロージョギング)、食事、観光を組み合わせたプログラムの開発を行っている。

#### ■ 共同研究プロジェクト

福岡大学とミズノ株式会社との連携・協力協定に基づき、その中心となるスポーツ科学部では、以下の研究プロジェクトが進行中であり、一部成果が出ている。

##### 「ベンディング作業員に対する肉体労働サポートツールウェアの導入」

本研究では、自動販売機に飲料を充填する作業員 (ベンディング作業員) に対して、肉体労働サポート機能 (腰痛防止ベルト等) を備えたツールウェアを開発することで身体的な負担を軽減し、慢性的な職業病や身体の不調などの労働環境を改善することを目指した研究を行った。その成果として大手飲料メーカーであるコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社は同社の全てのベンディング作業員に対して、ミズノ製作業靴とコンプレッションウェアを導入することを決定した。

### (2) スポーツ健康科学研究科

布目 寛幸・上原 吉就

まず、スポーツ健康科学研究科博士課程後期では、出口直樹氏が「慢性膝痛患者の予防を目的とした理学療法士による医療機関での患者教育の効果」をテーマに学位審査の最終試験に合格し、博士の学位を取得した。指導の労に対して心より感謝申し上げたい。前期課程では、8月に中間報

告会、2月に修士論文発表会が開催され、最終的には8名が最終試験に合格した。その中で重永乃理子氏が、参加した教員の採点で最高点を獲得し、優秀発表賞を受賞した。

国際交流に関しては、釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流会が会場を隔年ごとに持ち回ることにより行われている。本年度は2019年11月30日に福岡大学で開催されて多くの教員・大学院生が参加した。本学大学院からはMr. Hiroki Honda、Mr. Koyo Kuramoto、Ms. Eri Sonedaの3名の大学院生が、釜山側からはMr. Da-wit Kim、Ms. Ju-yeon Lee、Ms. Shanshan Wu、Ms. Su-Jin Leeの4名が英語による研究発表を行った。また本学のDr. Yuki Tomigaが” One week, but not 12 hours, of cast immobilization alters promotor DNA mrthylation patterns in the nNOS gene in mouse skeletal muscle. ” というテーマでTopic talkを行った。

本学術交流会が大学院生の国際学会での発表を拡大していく布石になることを願っている。発表会后、釜山からの参加者には福岡大学の体育・研究施設を見学していただいた。夜には、教員と学生に別れて懇親会が開催され、お互いの親睦を深め発表内容やその他の研究や研究環境についても議論が交わされた。



福岡大学で行われた学術交流会の参加者の集合写真

## 7 FD・SD活動

### (1) シラバス点検

藤井 雅人

スポーツ科学部では、毎年教務委員が中心となって、非常勤講師を含むスポーツ科学部専門教育科目担当教員から提出された次年度用の全シラバスの確認作業を行っており、2019年度で10年目を迎えることとなった。

令和2(2020)年度シラバスの確認作業は、2020年2月6日に、スポーツ科学科の確認作業担当者(下園博信、今村律子、田場昭一郎)、健康運動科学科の確認作業担当者(藤井雅人、山口幸生、霜島広樹)、および確認作業担当者作成分確認者である築山泰典(教務委員)によって実施された。その際、シラバスチェック委員会が作成した「シラバスチェックのポイント」を参考に、「専門教育科目の到達目標」「授業時間外の事前事後学習時間の記載」「成績評価基準および方法」等の項目について確認を行った。「授業時間外の事前事後学習時間の記載がない」「評価の基準および配分の記載がない」などのシラバスについては、科目担当者に修正の上、再提出するよう求めた。その後再提出されたシラバスの修正箇所についての確認を行い、2月20日までに全ての確認作業を完了した。

こうした確認・修正の取り組みもあって、スポーツ科学部専門教育科目のシラバスは全体的に見て、「シラバス作成のためのガイドライン」に則って適切に記載された内容に統一された。

また、共通教育科目における保健体育科目のシラバスについても、共通教育研究センターの依頼を受けて、2020年2月12日までに、確認作業担当者である下園博信および霜島広樹、確認作業担当者作成分確認者である藤井雅人(共通教育研究センター長補佐)が確認作業を行った。その際に修正が必要と判断されたシラバスについては、科目担当者に2月28日までに修正の上、再提出するよう依頼した。再提出されたシラバスは3月9日にウェブ上で公開された。

スポーツ健康科学研究科の「大学院シラバス記載内容に係るチェック作業」は、チェック作業担当者である上原吉就および布目寛幸、チェック作業担当者作成分確認者である川中健太郎(研究科長)によって実施された。その際に記載に不十分な箇所があるとされたシラバスについては、必要に応じ当該作成者に記載内容の改善等の要望を行うなどした。その後再提出されたシラバスの修正箇所の確認を行い、2020年3月19日までに全てのチェック作業を完了した。

### (2) 学外研修参加

藤井 雅人

2019年度は、スキー実習担当者の中から計3名が、以下の学外実技研修に参加した。

①2019年12月26～28日に岐阜県ほおのき平スキー場で開催された、公益社団法人全国大学体育連合東海支部主催「令和元年度冬期スノースポーツ研修会」に、スキー研修を目的として布目寛幸が参加した。その際、大学からの「FD活動推進経費」が用いられた。

②2020年1月3～6日に長野県菅平高原スノーリゾートで開催された、大学スキー研究会主催「2019/20年度 大学体育スキー指導者研究集会」に、安部七波、吉行理瑛の2名が参加した。



上記の学外実技研修参加者により作成された詳細な報告書はスポーツ科学部教授会（2020年2月6日）において報告され、研修内容の情報共有が図られた。また、スキー実習中に研修参加者から他教員への研修内容の伝達にも取り組まれ、実習指導の質向上に寄与することとなった。

また、山本泰暉、宮田卓哉の2名が、2020年3月9～11日に帝京科学大学千住キャンパス（東京都）で開催された、公益社団法人全国大学体育連合主催「第11回大学体育指導者養成研修会」に参加した。山本、宮田による本指導者養成研修会についての報告書は、2020年度4月開催の第1回目のスポーツ科学部教授会（2020年4月8日）において、特に実技研修内容と講演内容に関わって報告される予定である。その際、前者については「レクリエーションスポーツ」と「シッティングバレー」を中心に、また後者については「パラリンピックを通して考える共生社会」および「教養体育とアクティブラーニング」に関して、今後の授業の質向上に向けた有益な情報提供がなされることになる。なお、本研修会への参加には、大学からの「FD活動推進経費」が用いられた。

### （3）ワークショップ、研修会の開催

藤井 雅人

2019年度においてスポーツ科学部は、1回のFD講演会および2回のFDワークショップを開催した。

まずは、2019年7月10日にスポーツ科学部第二記念会堂1222教室において、本学教育開発支援機構准教授である須長一幸氏を講師とする「授業アンケート FURIKA の活用法」と題した令和元年度スポーツ科学部主催FD講演会を開催した。本FD講演会には、スポーツ科学部から講師以上の専任教員および助教・助手を合わせて56名、同学部事務職員2名、さらに教育開発支援機構から関係教員1名および事務職員3名、総計62名が参加した。

本FD講演会は、①スポーツ科学部教員が2018年度より導入された新授業アンケート FURIKA についての理解を深め、各自がそのフィードバック情報を授業改善に活用できるようになること、また②FURIKA をスポーツ科学部全体で組織的に活用していくためのヒントを得ること、を目指して開催された。

次に、2020年1月17日にスポーツ科学部第二記念会堂1222教室において、スポーツ科学部教員（米沢利広、藤井雅人、田口晴康、築山泰典）を情報提供者とする、「共通教育における保健体育科目の現状と課題」と題した、本年度第1回目のスポーツ科学部主催FDワークショップを開催した。本FDワークショップには、在外および国内研修中の2名を除く、スポーツ科学部所属の講師以上の専任教員、助教・助手の全員となる計57名、同学部事務職員2名が参加することとなった。また、教育開発支援機構から教員3名および事務職員4名、さらに附属若葉高校校長1名の参加もあり、本FDワークショップへの総参加者数は66名となった。

本FDワークショップ開催の最も大きなねらいは、2020年度より福岡大学の共通教育改革が本格的に動き出すにあたって、多くの専任教員が普段はあまり意識する機会がないように思われる、共通教育の枠組みにおける保健体育科目に目を向けてみるということであった。具体的には、①スポーツ科学部全教員が、特に生涯スポーツ演習をはじめとする保健体育科目のこれまでの変遷、

現状、課題について情報共有すること、②今後スポーツ科学部全体で保健体育科目のあり方を考え、議論していくための出発点を形成すること、という2点が目指された。

さらに、2020年2月7日には、スポーツ科学部第二記念会堂1222教室において、田辺明博氏（株式会社リアセック執行役員）を講師とする「PROGの結果を大学のデータと併せて活用する」と題した、本年度第2回目のスポーツ科学部主催FDワークショップが開催された。本FDワークショップには、スポーツ科学部所属の多くの講師以上の専任教員および助教・助手（計40名）、同学部事務職員（2名）が参加することとなった。また、教育開発支援機構から関係教員4名（人文学部所属教員1名を含む）および事務職員3名の参加もあり、本FDワークショップへの総参加者数は49名となった。なお、本FDワークショップは、大学からの「FD活動推進経費」を用いて開催された。

2015年度以降5年連続でコンピテンシーテストが主題となることになった本FDワークショップでは、これまでのFDワークショップで最も重要視されてきた「コンピテンシーテストの結果を活用した新しい教育方法の開発・導入」という開催目的の実現化が現在少なからず頓挫してしまっている事情もあって、そうした目的から一旦離れて、「まずはコンピテンシーテストの結果を様々な観点と関連づけてより深く精緻に分析し、そこから見える分析結果を用いて具体的な教育方法に関するヒントを探る」という方法論についてディスカッションすることを目指した。具体的には、田辺氏を講師として、①令和元年度のスポーツ科学部2年次生のコンピテンシーテストの結果について、加えて昨年度1年次に学部経費で実施したコンピテンシーテストの結果からの経年的な変化についても把握し、その特徴を探るといふこと、さらに他大学の事例を用いて、②コンピテンシーテストの結果と入学形態、GPAなど教務課あるいは教学IR室等によって扱われるいわゆる「大学データ」とを関連づけた分析、また同テストの結果と例えば競技成績、競技への取り組み姿勢、運動部内の役割など運動部活動をめぐる状況などといったスポーツ科学部独自の問題意識とを関連づけた分析に基づく新しい教育方法の開発の可能性を探るといふこと、の2点を目指した。

なお、上記のFD講演会およびワークショップとともに、2020年3月12日にスポーツ科学部第二記念会堂1222教室において、松井崇氏（筑波大学体育系助教）を講師とする、スポーツ健康科学研究科主催FDワークショップ「筑波大学体育系における人材育成システムの事例紹介 - 学群生、院生、教員として在籍した立場から -」を開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の社会的状況に鑑みて中止となった。

#### （4）授業アンケート

藤井 雅人

2019年度は、前年度より導入された授業アンケートFURIKAを、前期7月9～23日（集中講義：8月8・9日）、後期12月18日～1月15日（集中講義：随時）の期間で実施した。

「2019年度前期授業アンケート速報値集（学内公開版）」によれば、スポーツ科学部専門科目についての「回答率」（回答学生数／履修学生数）は70.2%（大学全体の回答率は65.1%）、「実施率」（回答率30%以上の回答科目／対象科目）は86.2%（大学全体の実施率は91.4%）であ

り、いずれも前年度前期（82.3%および97.3%）よりも10%以上低下した。また、学部専門教育科目のシラバスに示されている到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」を、スポーツ科学部ディプロマ・ポリシーに即して見てみると、平均して「知識・理解」4.0、「技能」4.2、「態度・志向性」4.3となり、非常に高い値を示した（なお、前年度本年報発刊時点で未発表であった2018年度後期の同到達度は、それぞれ4.0、4.3、4.2であった）。また、授業への主体的・積極的な取り組みを示す「積極性」については4.3、授業内容の理解に関わる「理解度」については4.2となり、これも高値となった（2018年度後期については、ともに4.2であった）。

次に、「2019年度後期授業アンケート速報値集（学内公開版）」によれば、スポーツ科学部専門科目についての「回答率」は59.5%（大学全体：52.2%）、「実施率」は72.5%（大学全体：79.1%）であり、前期よりもさらに10%以上低くなっている。また、シラバスの到達目標についてのスポーツ科学部生の「到達度」は、「知識・理解」4.1、「技能」4.4、「態度・志向性」4.3となり、前期に引き続き非常に高くなっている。さらに、前述の「積極性」および「理解度」についても、4.4および4.3となり、ともに高値を示した。

以上のように、2019年度前・後期のFURIKAの全体的な結果からは、スポーツ科学部の学生が授業での「到達度」「積極性」「理解度」に関わる自らのパフォーマンスを高く評価していることがわかる。ただし一方で、「回答率」と「実施率」が、昨年度前期の第1回目FURIKA実施時と比較してかなり低下していることも示されており、特に後期FURIKA実施科目であるゼミナールの回答率および実施率の向上などによる改善が望まれる。

このFURIKAの特徴の1つとして、担当教員、学位（教育）プログラム責任者の教員、学生にそれぞれきめ細やかなフィードバック情報をWeb上で提供していることが挙げられるが、学生や教員によってそうした情報が十分に活用されているとはいえない状況にある。例えば、2019年度前期のフィードバック情報のスポーツ科学部生の閲覧率は23%と低く、教員のそれもまた64%にとどまっている。今後はフィードバック情報の活用について、学生に積極的に働きかけるとともに、教員には前述のFD講演会のような啓蒙活動、情宣活動を行う必要があるだろう。

ただし一方で、後期のフィードバック情報に関して、非常勤講師を含む学部専門教育科目および保健体育科目の担当者に、「この授業であなたが学んだことは何でしょうか」という質問に対する受講生の記述回答（いわゆる「学生コメント」）の公開選択（2019年度より全受講生に公開）を義務化するとともに、その「学生コメント」を受けての「教員コメント」の積極的な記入について説明・依頼したところ、前期対象クラスの55%の公開率および27%の記入率から、現時点では非公式の数値ながら、後期は88.3%および48.5%にそれぞれ大きく向上した。こうした成果が、フィードバック情報を閲覧する学生に深い学びや新しい気づきが得られるきっかけとなるよう期待される。

なお、スポーツ健康科学研究科も2020年1月6～17日にかけて、博士課程前期および後期の全在学者17名を対象にFDアンケート調査を実施しており、その中の「研究指導満足度」については、60%強が「大変満足」「満足」と回答しているものの、20%弱が「不満」「大変不満」とし、2008年に調査を開始して以降で最も大きな割合を占めた（過去2年は0%）。その一方で、「特論満足度」については、「大変満足」「満足」が90%以上となっており、非常に高い満足度を示した。

## 8 地域連携・社会貢献・高大連携

野口 安忠・小牟礼 育夫・乾 真寛・田場 昭一郎

### ■ 地域連携・社会貢献

#### 1. 各教室の実施状況

平成 30 年度、エクステンションセンター事業である福岡大学市民カレッジの参画で開講した講座数は 9 講座、受講者数 532 人であった。これに対し、令和元年度では、開講予定の講座数は 10 講座であったが、申し込み者が定員に満たなかったため、2 講座閉講となり、8 講座、受講者数 489 人と全体の受講者数 43 人の減少がみられた。このような講座減少は、受講者を対象としたアンケートの回答からも民間などが運営するスポーツクラブの増加や加入者が多くなっていることが要因の一つとして考えられる。今後の課題としては、学部のホームページなどを利用した広報活動や専門スポーツに特化しない総合型の講座を開講するなど、より本学部で開講する講座の魅力伝える方法を模索していくことが挙げられる。福岡大学市民カレッジ以外の活動では、今年度もサッカー部が元プロサッカー選手も招待して小学生 50 人を対象に親子サッカー教室を開講した。

《市民カレッジ・スポーツ講座》

◇キッズ・スポーツ教室 - 受講生 7 教室 計 385 人

前期開催：キッズ体操教室 (46 人)、キッズ・サッカークラブ (123 人)、キッズ・バレーボール教室 (24 人)

後期開催：キッズ・サッカークラブ (76 人) キッズ体操教室 (42 人)、キッズ陸上教室 (74 人)

◇一般・スポーツ教室》受講生 2 教室 計 104 人

前期開催：女性のための元気体操教室 (51 人)

後期開催：女性のための元気体操教室 (53 人)

《その他》

◇小学生対象サッカー教室 (50 人)

#### 2. 授業支援および事業企画

平成 30 年度に引き続き、福岡市との連携協定に基づく地域・社会貢献活動では教育支援プロジェクトとしてサッカー、水泳、新体力テストを中心に 8 件の授業支援を実施した。これらの授業支援には今年度もサッカー部および水泳部はもちろんのこと本学部の学生が多く指導補助として参加している。サッカーにおいては、ドリブルをテーマに運動やサッカーが苦手な子供に対しても楽しんで参加できるように、仲間と協力して結果を分かち合える内容を実践した。水泳においては、小学生 1-6 年生に競泳 4 種の模倣泳法、児童にスノーケリング教室を実施した。全く泳げない児童には、水に対する抵抗感や不快感を緩和させるため、マスク、スノーケル、フィンなどを活用した指導を行った。また、新体力テストでは、「私立大学研究ブランディング事業(タイプ B)」の「学童期から思春期における学校適応・活力ある人形成」の研究チームとも連携しており、ボ

ールの投げ方や走り方のコツなども指導するとともに、小学生の体力を把握するため、経年的なデータを蓄積しながら児童の「生まれ月と体力の関連」、「運動部やクラブ所属状況と体力の関連」についても調査をしている。さらに、同チームは福岡市教委育員会で共同作成し、平成30年4月に福岡市の小中学校へ配布したコーディネーショントレーニングの教材（書籍及びDVD）を用いて小学校教員、保育士を対象に研修を4件実施し、小学生に対する取り組みの効果も検証を進めている。事業企画・協力では、今年度も福岡市東区アイランドシティにおける健康づくりを目的とした運動指導と体力測定会を開催し、近隣40人の高齢者が参加する中、本事業の効果を高めるために栄養摂取状況、運動実践状況などを調査し、結果は参加者にもフィードバックし、生活習慣改善の指導で活用した。

◇授業支援（福岡市との連携協定：私立大学研究ブランディング事業）

新体力テスト：那珂小学校、東住吉小学校、塩原小学校

体育（水泳およびスノーケリング）：那珂小学校、横手小学校、東住吉小学校

体育（サッカー）：那珂小学校、横手小学校

コーディネーショントレーニング：北九州市小倉南区の保育士、大野北小学校教員、  
福岡市教育委員会主催による小学校教員、  
横手小学校教員

◇事業企画・協力

福岡市東区アイランドシティにおける運動指導と体力測定会（40人）

### 3. その他

今年度もサッカー部を中心に大学と福岡市が協力し、障がい者スポーツを支援する「ふれあいスポーツフェスタ2019」を開催した。本事業では200人の参加者が集まり、本学サッカー場で精神障がい者を対象とした「九州・四国スカンビオンカップ」、健常者と障がい者の交流を目的とした「障がい者サッカー体験・交流会」を実施した。また、本学からはボランティア300人の学生ボランティアが大会運営に協力し、障がい者スポーツの発展に貢献した。このほかにも、サッカーを通じた社会貢献の活動では「福岡大学フットボール・カンファレンス2019」を開催し、地域のサッカー指導者200人を対象に海外より招聘した監督による講演会および実技クリニックを行い、受刑者の更生の一助として福岡少年院のサッカー指導も実施した。サッカー以外での活動としては「福岡大学招待中学生女子バレーボール大会」を開催し、九州各県、山口地区の中学校64校が参加した。

## ■ 高大連携

高大連携事業は、主に福岡大学附属大濠高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、スポーツコミュニケーションコースがある福岡県立早良高等学校と行われている。

### 【附属大濠高等学校】

9月 附属大濠高等学校模擬講義（2年生総合的な学習「福大講座」）および福岡市立高校高大連携プログラムにおいて、本学部教員2名が60分の模擬講義を行なった。

**【附属若葉高等学校】**

6月 スポーツ科学部教棟に隣接する第二記念会堂フロアにて体育祭が実施された。

10月 本学部教員が2コマ（1コマ50分）の模擬講義を行なった。

12月 スポーツ科学部学部祭のイベントのひとつ「先輩と語る」に生徒が参加した。

**【福岡県立早良高等学校】**

今年度、具体的な連携事業は実施できなかったが、次年度以降、出張講義、教育実習生の受け入れ、運動部間での交流を念頭に、検討していきたい。

## 9 国際交流

森口 哲史・今村 律子・小牟礼 育夫

### ■ 国際センター関連事業

#### 1. 学部生に対する情報提供

- ・新入生全員に対する学部懇談会（2019年4月）で関連事業の案内を行なった。  
その際、「福大生のための学習ナビ2019」を活用した。  
（内容）国際センターの活用方法、グローバル・アクティブ・プログラム（GAP）、  
交換留学と海外研修、留学生交流（国際交流チーム；FIT）について

#### 2. 国際センタープログラムを活用した交換留学・海外研修

- ・交換留学；スポーツ科学部 0名
- ・海外研修；スポーツ科学科 0名、健康運動科学科 0名、計 0名

#### 3. GAP連携のインターミディエイト・イングリッシュ GE クラスを履修した学生の 短期海外研修

- ・スポーツ科学科；2名、健康運動科学科；1名  
（カナダ1名、マルタ1名、オーストラリア1名）

#### 4. 福岡大学国際交流チーム(FIT)登録者

2019年度 スポーツ科学部；0名

### ■ 大学間学術協定 MOU、教員海外研修

1. 大学間学術協定事業について、Universiti Teknologi MARA (UiTM；マレーシア)との大学間学術協定が平成31年2月4日付け（学長調印）で締結された。これを受けて、本学部森口哲史教授のUiTM・Faculty of Sports Science & Recreationへの長期在外研修が承認、令和元年9月1日より現地に派遣された。派遣期間中には、個人研修課題の遂行を始め、大学院スポーツ健康科学研究科学術交流（現在は、本学と韓国釜山大学との2大学間で実施している）の調整および学生の交換留学派遣等に関する話し合いを進める予定である。

#### 2. 2019年度教員海外短期研修

国際センターが実施した教員向け海外短期研修に、本学部より今村律子准教授が参加された。英語で効果的に授業を行うスキル向上を趣旨とし、8月24日より9月1日までの10日間、アメリカネブラスカ大学オマハ校で研修を行った。

### ■ 留学生関係

#### 1. 外国人留学生数

大学院博士後期課程；1名（マレーシア）

## 2. 学部留学生入学試験

スポーツ科学部；志願者 0 名、合格者 0 名、入学者 0 名

### ■ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

#### 1. アスリート・コーチ育成プログラムによる海外研修

スポーツ科学科；4 名（サッカー競技の研修、スペイン・バルセロナ）

（参考・2019 年度 スポーツ科学部の海外研修に繋がる関連科目受講者数）

ピークパフォーマンス演習 I スポーツ科学科 183 名、健康運動科学科 9 名

ピークパフォーマンス演習 II スポーツ科学科 0 名

トップアスリートコーチ論 スポーツ科学科 20 名

### ■ 国際協力機構 JICA との連携事業

#### 1. スポーツ科学部生がスポーツ分野の学生ボランティアとしてボリビアに派遣され、計 13 名がサポート活動を行った。2020 年 2 月 3 日～2020 年 3 月 13 日

（参加学生；野球部 6 名、準硬式野球部 1 名、サッカー部 6 名）

<スポーツ健康科学研究科と釜山国立大学スポーツ科学研究科との学術交流>

#### 1. 8th Pusan National University (Korea) & Fukuoka University Annual Conference 2019 が開催された（2019 年 11 月 30 日；福岡大学）

（研究活動状況に再掲）



## 10 教職課程

柿山 哲治・今村 律子

### ■ 教職課程登録者数（2019年度）

学部	学科	19台	18台	17台	16台	15台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科	161	138	96	89	5	489
	健康運動科	48	46	39	34	3	170
合計		209	184	135	123	8	659

### ■ 社会教育主事課程科目登録者数（2019年度）

学部	学科	19台	18台	17台	16台	15台以前	合計
スポーツ科	スポーツ科			0	1	0	1
	健康運動科			1	0	0	1
合計				1	1	0	2

### ■ 教員免許状取得状況（2019年度）

学部	学科	卒業生	免許状取得者数	免許状取得率
スポーツ科	スポーツ科	216	76	35.2%
	健康運動科	75	31	41.3%
合計		291	107	36.8%

### ■ 教員免許状（一種）一括申請者数（2019年度）

学部	学科	申請者数	中一種	高一種	申請件数
			保健体育	保健体育	
スポーツ科	スポーツ科	76	55	76	131
	健康運動科	31	25	31	56
スポーツ健康科学研究科		6	6	6	12
合計		113	86	113	199

## ■ 教員免許状更新講座

講座名：『保健体育教員なら知っておきたいバレーボールと柔道の指導法』

実施日：2019年8月8日（木） 受講者数：13名

担当者：米沢利広教授、坂本道人准教授

講座名：『保健体育教員なら知っておきたい体育理論の指導法』

実施日：2019年8月21日（水） 受講者数：23名

担当者：柿山哲治教授、山口幸生教授、重森 裕准教授

## ■ 教員採用試験合格者数

11名（福岡県小学校1名、長崎県小学校1名、佐賀県小学校1名、熊本県小学校1名、三重県中学校1名、兵庫県中学校1名、広島県中学校1名、福岡県中学校2名、広島市高等学校1名、宮崎県高等学校1名）

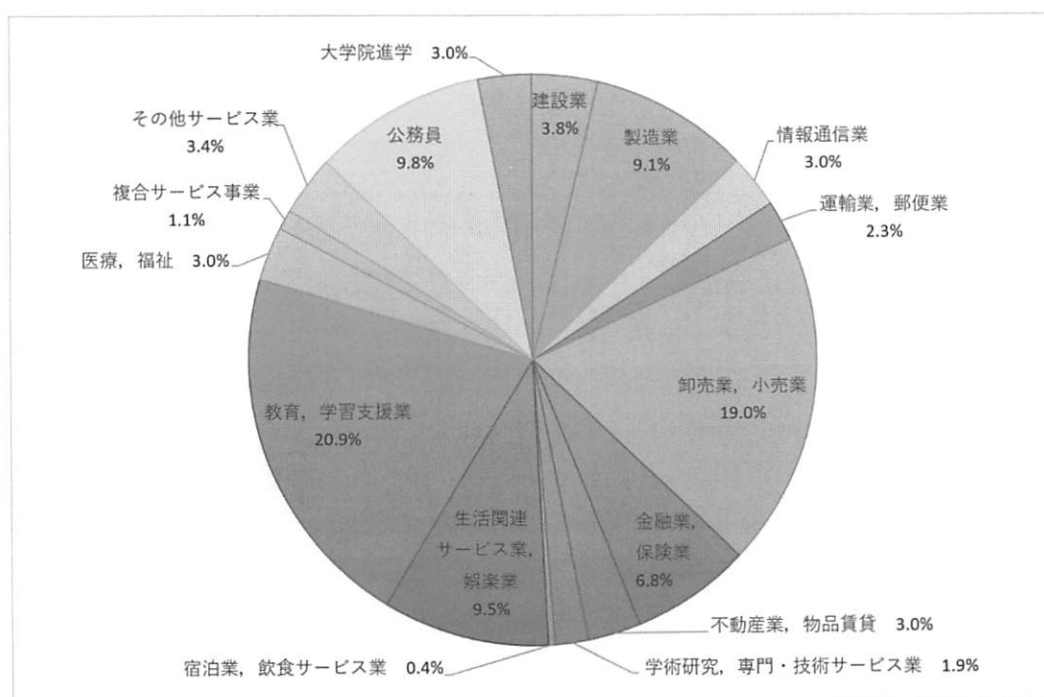
# 11 就職・進路

## (1) スポーツ科学部

柿本 真弓・野口 安忠

リクルートワークス研究所が発表した「第36回ワークス大卒求人倍率調査（令和元年度卒）」によれば、1.83倍と前年の1.88倍より0.05ポイント低下したが、依然として学生優位の売り手市場となっている。本学に寄せられた求人は、17,235件、来学企業件数は、1,180社であった。また、就職率は97.2%となり、前年度より0.1ポイント上昇した。スポーツ科学部においては、全体で99.2%、男子99.4%、女子98.7%であった。その内訳は円グラフに示した。

また、今年度初めて開催された、全学年を対象とした合同業界研究会（1/31・2/1）では、約300社の参加があり、学生の反応は上々であった。



主な就職先は、以下のとおりであった。

旭化成ホームズ（株）、中村建設（株）、（株）NTTフィールドテクノ、（株）再春館製薬所、大塚製薬（株）、久光製薬（株）、黒崎播磨（株）、TOTO（株）、大同特殊鋼（株）、日本製鉄（株）、リンナイ（株）、日本無線（株）、住友電気工業（株）、ミズノ（株）、（株）マイナビ、ANA福岡空港（株）、九州旅客鉄道（株）、コカ・コーラボトラーズジャパン（株）、西部ガスリビング（株）、（株）福岡九州クボタ、リコージャパン（株）、（株）アステム、（株）翔薬、福岡トヨタ自動車（株）、福岡日産自動車（株）、（株）クレーマージャパン、（株）西日本シティ銀行、楽天銀行（株）、第一生命保険（株）、（株）レンタルのニッケン、九電産業（株）、トラストホールディングス（株）、MT&ヒルトンホテル（株）、西鉄旅行（株）、（株）サニクリーン九州、スポーツクラブNAS（株）、（学）福岡大学、公益財団法人福岡労働衛生研究所、日本赤十字社福岡県支部、エフコープ生活協同組合、公益財団法人福岡県スポーツ振興センター、（株）ジャパンプバレッジ中四国、総合警備保障（株）、伊万里市役所、福岡県警、春日・大野城・那珂川消防組合消防本部、刑務官、福岡

県小学校、長崎県小学校、佐賀県小学校、熊本県小学校、三重県中学校、兵庫県中学校、広島県中学校、福岡県中学校、広島市高等学校、宮崎県高等学校、（学）佐賀清和学園など

**（２）スポーツ健康科学研究科**

川中 健太郎・上原 吉就

前期課程修了者の就職先は、つくば開成福岡高等学校（1名）、筑紫台高等学校（1名）、上智福岡中学高等学校（非常勤講師 1名）、福岡大学事務職員（2名）、福岡大学スポーツ科学部（助教 1名）であった。

## 12 広報推進

小牟礼 育夫・今村 律子・森下 奈央

### ■ 学部ホームページ更新

2019年度、学部ホームページの情報更新作業は、年次更新（「トップ選手を輩出」卒業生と現役学生の確認）、随時更新（TOPICS）が中心となっている。

2019年度 カテゴリー別更新件数（単位：件）\*述べ件数

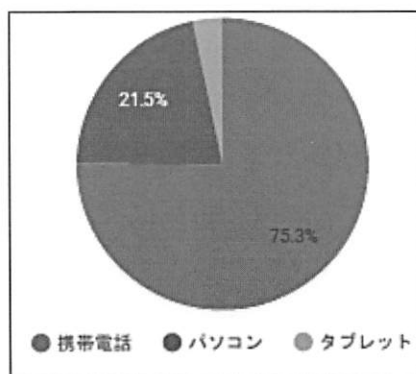
カテゴリー	入試情報	部活動	教育・研究	学生・教員の活躍	お知らせ	試合結果	合計
更新件数	4	8	2	6	12	32	64

2019年4月1日より、アクセス解析ツール（Google アナリティクス）を使用し、本学部サイトのアクセス状況をまとめた。入試情報サイトへのアクセスを目標項目とした場合のアクセス状況、デバイス別アクセスと都道府県別アクセスランキングを下記に示す（2019/4/1～2020/3/31 調べ）。



【目標】入試情報サイト到達（スポ科HP画面下の入試情報サイトボタンをクリック）

日別アクセスユーザー数と目標完了数



デバイス別アクセスの割合

都道府県別アクセスランキング（目標到達順）

都道府県名	ユーザー	新規ユーザー	コンバージョン率
1. 福岡県	13,483	12,472	26.62%
2. 大阪府	6,786	5,727	22.55%
3. 東京都	4,968	4,432	26.59%
4. 神奈川県	1,314	1,159	24.46%
5. 熊本県	857	821	51.04%
6. 愛知県	822	714	25.27%
7. 広島県	688	618	51.13%
8. 長崎県	643	620	49.03%
9. 鹿児島県	620	598	45.96%
10. 佐賀県	575	545	44.29%

## ■ 学部創設 50 周年記念事業ホームページ更新

2019年11月2日の記念行事に向けて、学部創設50周年記念サイトからイベントの案内をはじめ、様々な情報を発信した。記念行事終了後は、ご協力の御礼（協賛企業名の掲載等）、記念グッズの紹介、イベント開催の報告などを引き続き更新した。このサイトは、しばらく本学部サイトとのリンクを継続する予定である。



学部創設 50 周年記念各サイト

## ■ 学部広告掲載一覧

一般社団法人日本体育学会第70回大会	2019/9/10～12 開催	A4 白黒 1 ページ
--------------------	-----------------	-------------

## 13 外部獲得資金実績

布目 寛幸・上原 吉就

科学研究費 (H31/R1 年度)

研究種目	代表者名	研究課題	金額
基盤研究(B)	川中 健太郎	除脂肪量増加に有効な食事処方に関する基礎的研究	3,500,000
基盤研究(B)	檜垣 靖樹	エピジェネティック修飾による運動適応機構の解明	3,600,000
基盤研究(C)	上原 吉就	運動による HDL 代謝・機能の向上作用とミトコンドリア機能へおよぼす効果の検討	700,000
基盤研究(C)	柿山 哲治	マリアナ・ヤング女史が明治期に導入した Physical Culture の解明	900,000
基盤研究(C)	布目 寛幸	足底装具(インソール)によるスポーツパフォーマンスへの効果の解明	1,400,000
基盤研究(C)	道下 竜馬	労働者の労働生産性向上に対する職場単位で行うアクティブレストの効果検証	1,000,000
挑戦的研究(萌芽)	川中 健太郎	骨格筋の成長を促すアミノ酸や低分子ペプチドの探索と同定	2,400,000
挑戦的研究(萌芽)	檜垣 靖樹	運動トレーニング及び肥満への適応は筋幹細胞にメモリーされるか？	1,200,000
若手研究(B)	伊賀 崇人	サッカーのボールインパクトにおける足部への力学的負荷を推定する新たなモデルの開発	400,000
若手研究(B)	泉原 嘉郎	小学校の体育授業で使える実践的コーディネーショントレーニングの開発と効果検証	600,000
若手研究(B)	田村 雄志	棒高跳の助走におけるストライド調整メカニズムの解明	400,000
若手研究	古瀬 裕次郎	地域高齢者の認知症及び認知機能低下リスク要因の検討—10年前向きコホート研究—	1,400,000
若手研究	羅 成圭	老化とともに骨格筋や脳が委縮する分子機構ならびに運動による防止効果	1,900,000
研究活動スタート支援	西田 智	ハムストリング肉離れ再発における複合要因の解明—線維化した筋組織と他要因の関連—	1,100,000
研究活動スタート支援	山本 泰暉	人工甘味料による骨格筋不全メカニズムの解明および自発運動による改善効果の検討	1,100,000
研究活動スタート支援	※富賀 裕貴	運動による抗うつ・抗不安効果における脂肪組織の役割の解明	1,000,000

※身体活動研究所：ポストドクター

受託研究 (H31/R1 年度)

依頼者	研究代表者	研究課題	金額
(学法)慶應義塾	檜垣 靖樹	高齢者の虚弱化の予防・先送りに資する総エネルギー消費量の評価法に関する研究	1,300,000
春日市立天神山小学校	山口 幸生	心と体の健康増進業務	201,000
中村学園大学	檜垣 靖樹	メタボリック症候群の個々人の心音に基づく運動アドバイスシートの開発	18,000

研究助成寄附金 (H31/R1 年度)

機関名	研究代表者	研究課題	金額
ヨネックス(株)	布目 寛幸	研究助成のため	2,500,000
第一三共(株)	上原 吉就	研究助成のため	1,000,000
サノフィ(株)	上原 吉就	研究助成のため	1,000,000
ノバルティスファーマ(株)	上原 吉就	研究助成のため	500,000
(株)ケイ・エス・オー	檜垣 靖樹	研究助成のため	440,000
大日本住友製薬(株)	上原 吉就	研究助成のため	300,000
(社)10分ランチフィットネス協会	道下 竜馬	10分ランチフィットネスプログラムの啓蒙活動、調査研究に対する助成	300,000
(一財)滝井記念財団	渡邊 孝士郎	研究助成のため	50,000

共同研究 (H31/R1 年度)

機関名	研究代表者	研究課題	金額
旭化成(株)	上原 吉就	ウェアラブルデバイスを用いた運動強度評価に関する研究	9,994,667
サントリー食品インターナショナル(株)	檜垣 靖樹	イノシン酸の経口投与がマウス骨格筋グリコーゲン蓄積に及ぼす影響	0
パナソニック(株)エコソリューションズ社	檜垣 靖樹	住宅高齢者の活動量履歴解析による認知症早期発見に関する研究	0
(株)明治	川中 健太郎	効果的な除脂肪体重の増量方法検討試験	0
京都大学	檜垣 靖樹	iPS 細胞由来の骨格筋細胞における核とミトコンドリアの共遊走機構の解明	0
京都大学	上原 吉就	iPS 細胞由来の心筋・骨格筋細胞におけるアポリポ蛋白発現調節機構の解明とミトコンドリア機能への影響	0



## 14 関連資料一覧

- ※ 福岡大学 大学案内
- ※ 福岡大学スポーツ科学部 学部案内
- ※ 福岡大学入試ガイド
- ※ 福岡大学要覧
  
- ※ 福岡大学スポーツ科学研究
  
- ※ 教育開発支援機構年報
  
- ※ 福岡大学研究推進部年報 (2019)
  
- ※ 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書 (令和元年度)
  
- ※ 福岡大学スポーツ科学部卒業論文抄録集 (令和元年度)
  
- ※ 教育実習報告書
- ※ 教職事前実習報告書
  
- ※ キャンプ実習、スケート実習、アクア実習、スキー実習報告 (令和元年度)
  
- ※ 大学生のスポーツと健康生活 (大修館書店)
  
- ※ 福岡大学スポーツ科学部 50 周年記念誌

**福岡大学**  
**スポーツ科学部 大学院スポーツ健康科学研究科 年報**  
**令和元年度（2019）第5号**

発行日 令和2年5月発行  
編集者 学部年報編集委員会  
田口晴康 森口哲史 今村律子  
発行者 福岡大学スポーツ科学部  
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19-1  
TEL : 092-871-6631(代) FAX : 092-865-6029  
印刷所 有限会社新幸印刷  
〒830-0045 福岡県久留米市小頭町 10-1-2F  
TEL : 0942-38-0898

